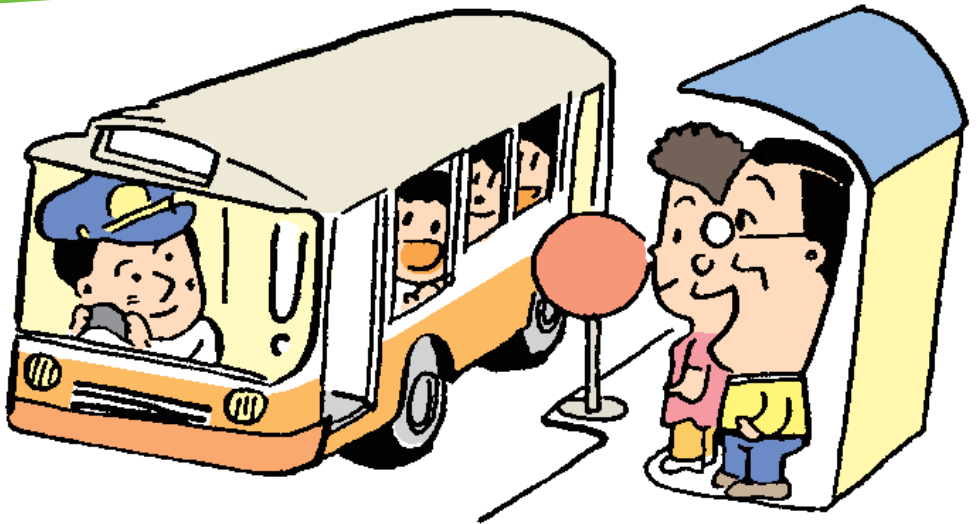


乗車ごとの50円負担廃止、市バス路線の充実が可能です

大阪市で1972年から始まった敬老パスの制度は、お年寄りの外出を促し、健康の維持や街のにぎわいにも大きな役割を果たしてきました。ところが橋下市長による「公約違反」によってお年寄りの社会参加が困難になっています。また、自転車を使うようになって事故の件数も増えています。

敬老パス問題を通じて、大阪市政のあり方を一緒に考えましょう。



「敬老パスは維持します！」

ウソからはじまった「維新」市政

橋下市長は、「だまされないで下さい!!」「敬老パスは維持します。私鉄にも!」と4年前、市長選挙で公約していました。それを「バカみたいな政策」といって有料化しました。そして今、乗車ごとの50円負担の廃止などの改善さえ許さないという態度をとっています。



2011年11月に執行された大阪市長選挙の選挙公報

こんな発言して公約違反

- 「大阪市民は非常にぜいたくな住民サービスを受けている」(2012年4月)
- 「一駅分二駅分敬老パス使わずに、なければ歩いて行こう」(2012年5月市議会)
- 「こんなバカみたいな政策(敬老パス)をずっとやり続けている」(2012年12月総選挙前)



元市議団幹事長と いっしょに実現を!



- 敬老パスの改善
乗車ごとの50円負担を廃止
- 地下鉄1区と2区料金の格差を値下げで是正

「50円負担が始まって月平均で67万人の乗車人数が減り交通局は月平均1億1千万円の減収になりました。年配の方の生きがいつくり、社会参加を促すという当初の目的趣旨が損なわれています。負担軽減ができれば経済的効果もあがります。」(テレビ討論で発言)

市営地下鉄の 黒字は348億円 (2014年)

市営地下鉄は4年間で1000億円を超える経常利益を挙げている超優良企業です。市民に利益を還元するのは当然です。敬老パスの乗車ごとの50円負担を廃止することで、新たに市民の負担が増えることはありません。

「維新」は、システム改修費などを持ち出し、50円負担廃止を非難していますが、多額を要しない方式にすればよく、非難はあたりません。

年度	黒字額
2011	167億円
2012	268億円
2013	303億円
2014	348億円

市バス路線・便数の充実で 市民の足を守ろう!

赤字路線の廃止や減便で、市民の足が奪われています。市バス路線の充実で通院や買い物に不便のないようにするため、地下鉄と一体運営でバス路線の復活・拡充は可能です。

市民から寄せられた声

- 家から出ない人も子どものところに行ったり、知り合いに会いに行ったり、無料だから使うのです。敬老パスはいわば健康老人をつくる政策です。
- 郵便局や病院に行くのにも電車に乗らなければなりません。少ない年金暮らしに、50円の負担は苦しいです。